

由良川洪水時の浸水・避難状況に関するヒアリング調査結果 【単純集計結果】

1 調査対象

福知山市街地と遷喬地域（戸田・石原・土地区）の浸水想定区域内の住民

2 調査期間

平成 27 年 8 月 29 日（土）から平成 27 年 8 月 30 日（日）

3 取得数

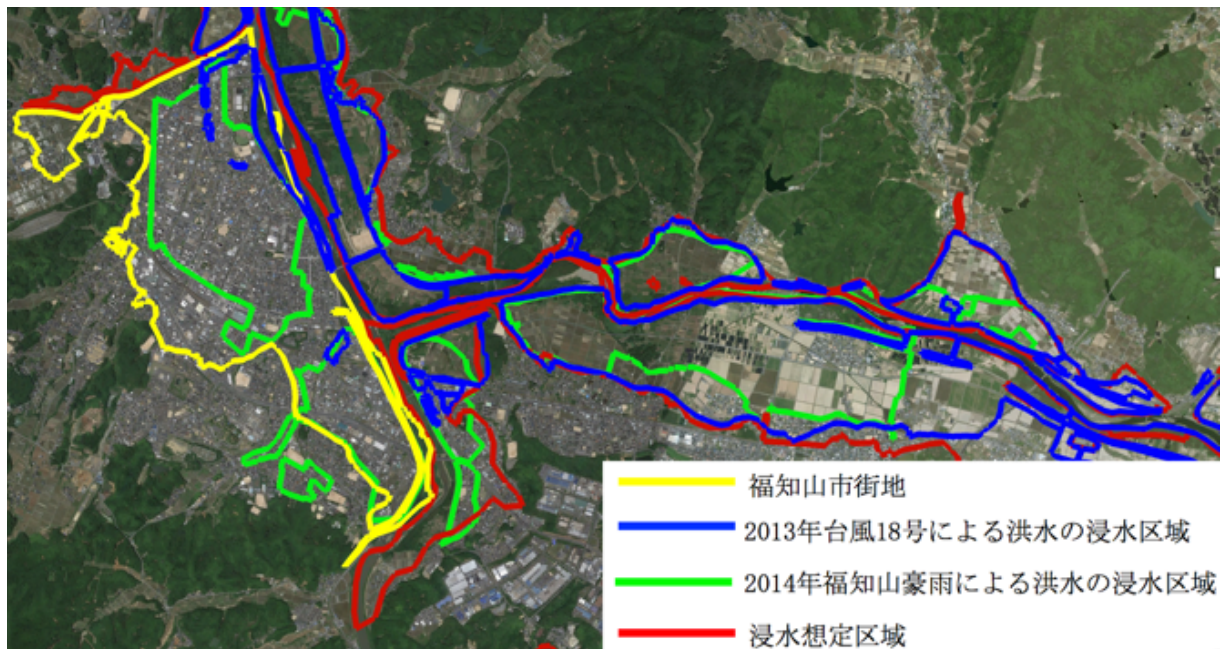
215 件

4 調査方法

自宅訪問によるヒアリング調査

5 調査対象図

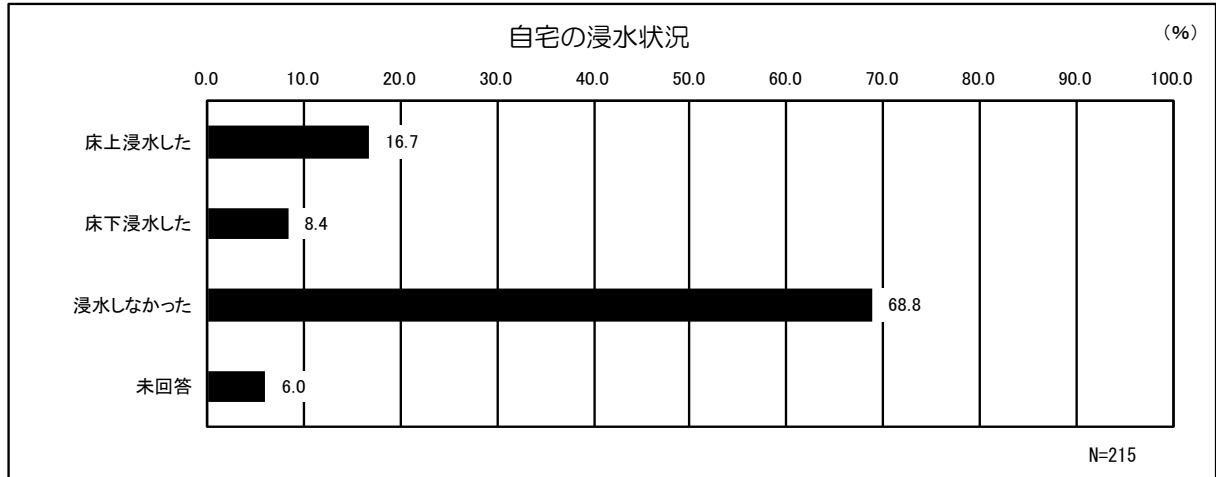
京都府福知山市における浸水想定区域に住民



6 調査結果

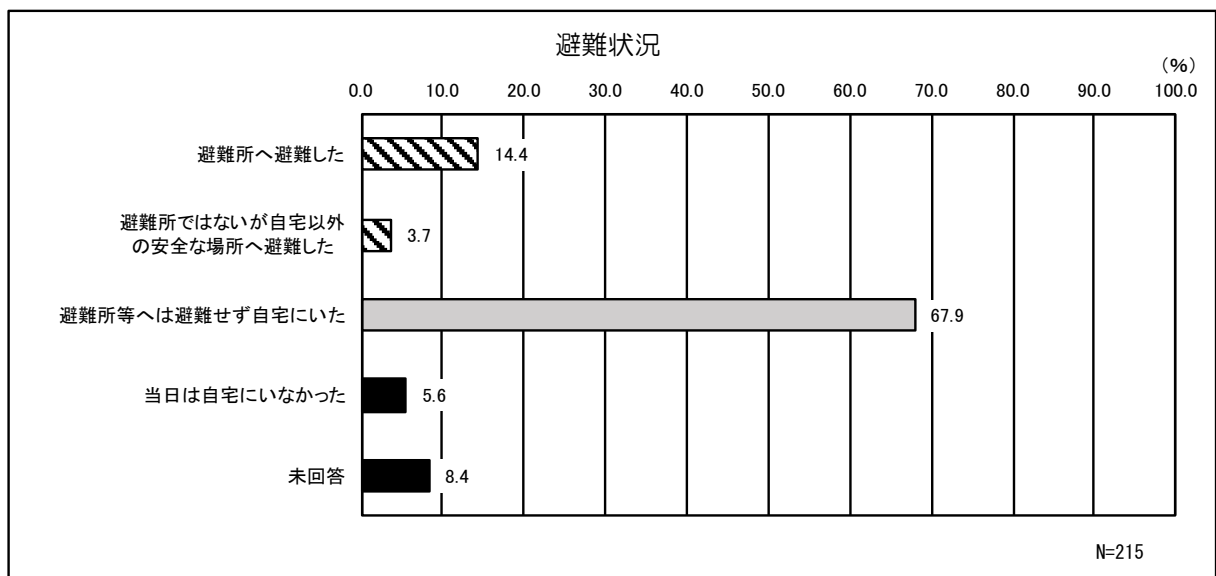
①2013 年台風 18 号による洪水について

問1) ご自宅は浸水しましたか？



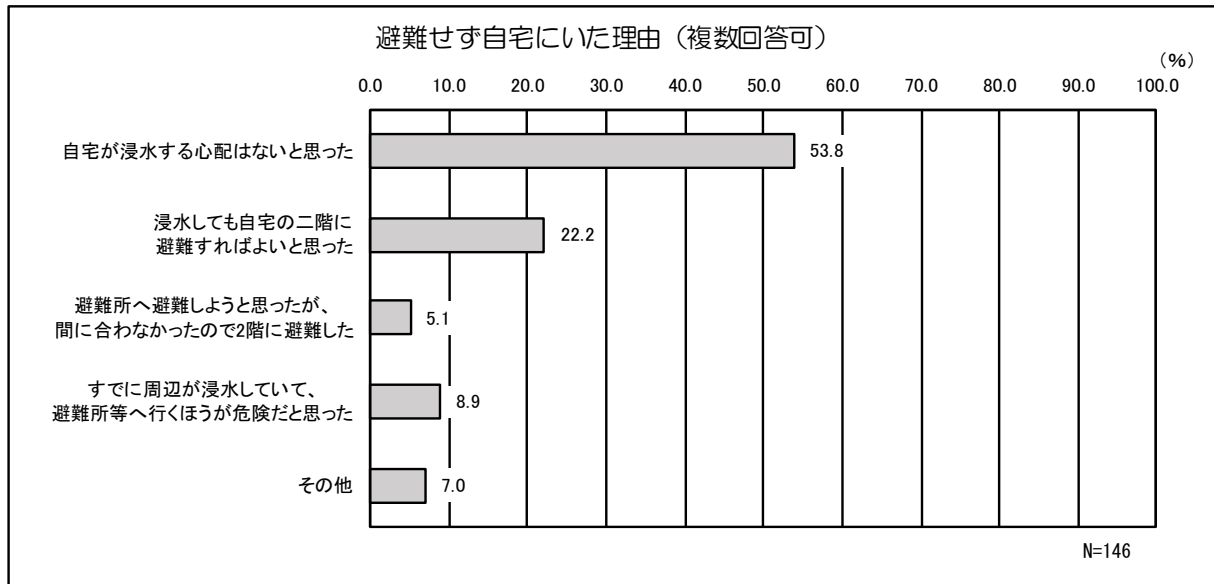
自宅の浸水状況については、「浸水しなかった」住民が約 7 割であり、「自宅が浸水した」住民が約 25%であった（「床上浸水した」と「床下浸水した」の合計）。

問2) 避難しましたか？



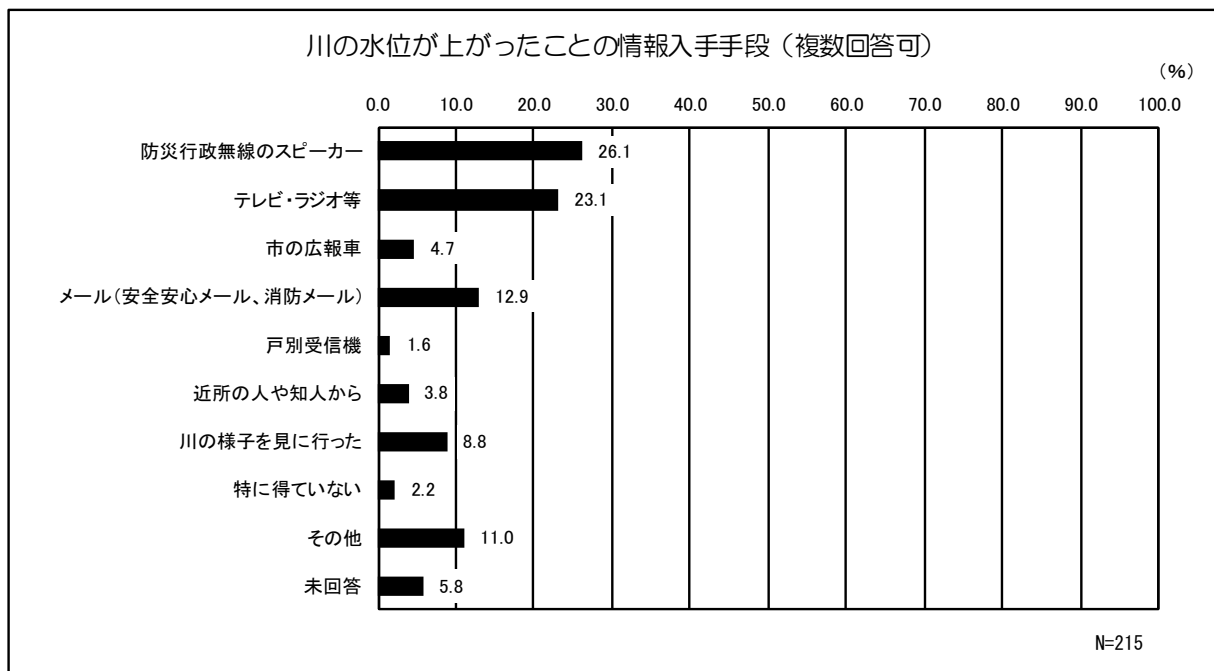
「避難所等へは避難せず自宅にいた」住民は約 68%であり、「避難所等へ避難した」住民は約 18%であった（「避難所へ避難した」と「避難所ではないが自宅以外の安全な場所へ避難した」の合計）。

問 3) 避難せずに自宅にいた理由はなんですか？



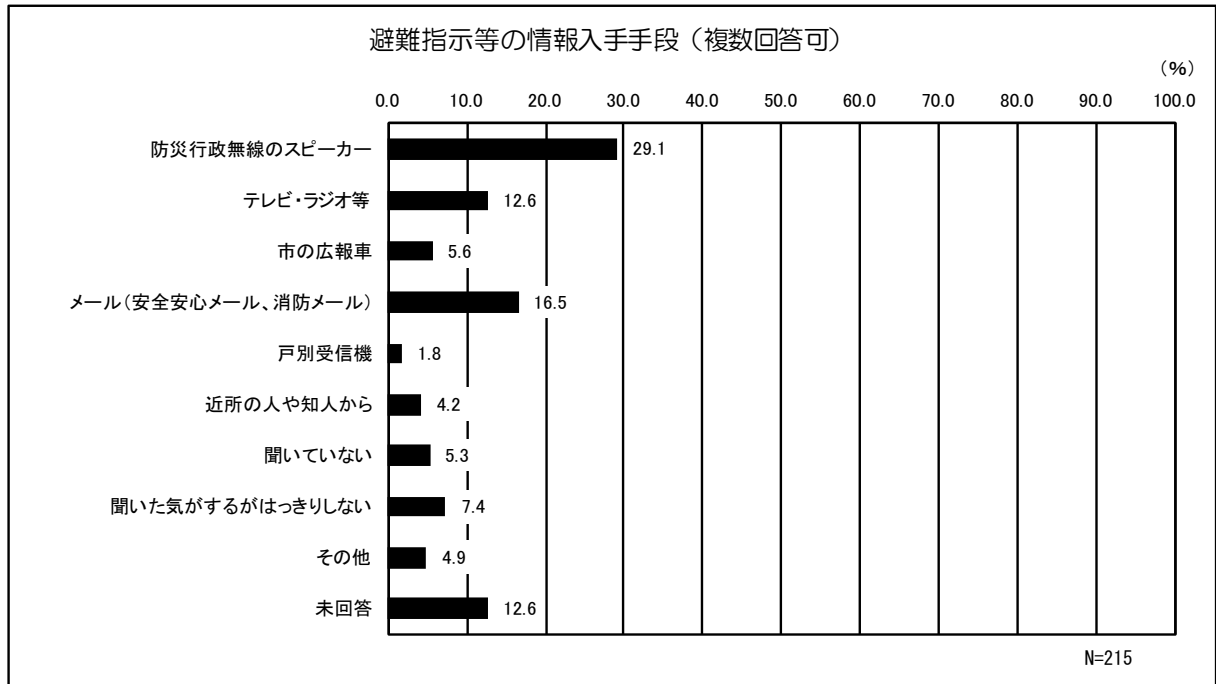
自宅にいた理由は、「自宅が浸水する心配はないと思った」が約 54%で最も多く、次いで「浸水しても自宅の二階に避難すれば良いと思った」が約 22%であった。

問 4) 災害発生時やその前に川の水位が上がったこと等は何から情報を得ていましたか？



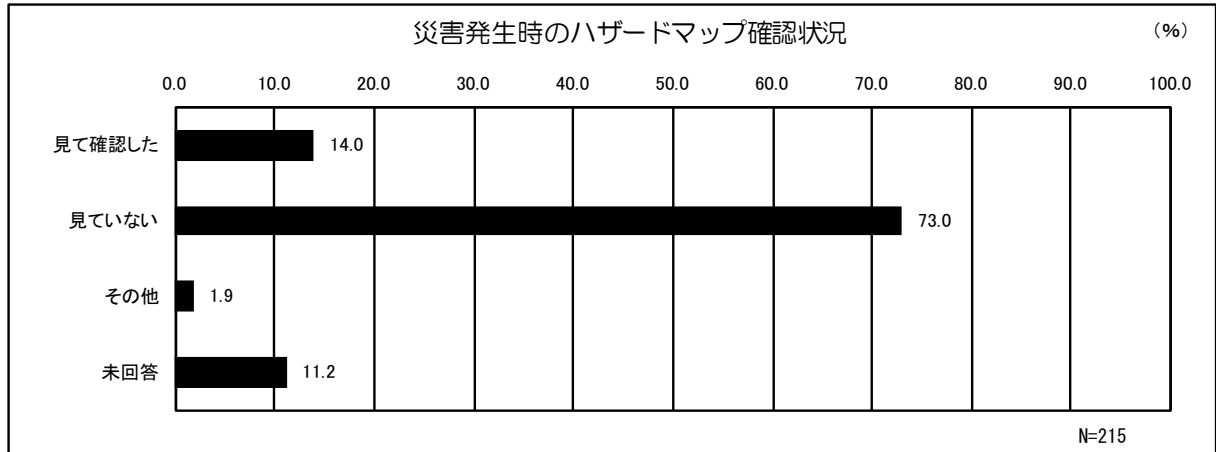
川の水位に関する情報取得手段は、「防災行政無線のスピーカー」が最も多く約 26%、次いで「テレビ・ラジオ等」が約 23%、「メール (安心安全メール、消防メール)」が約 13%であった。

問5) 避難勧告や避難指示の情報を何で知りましたか？



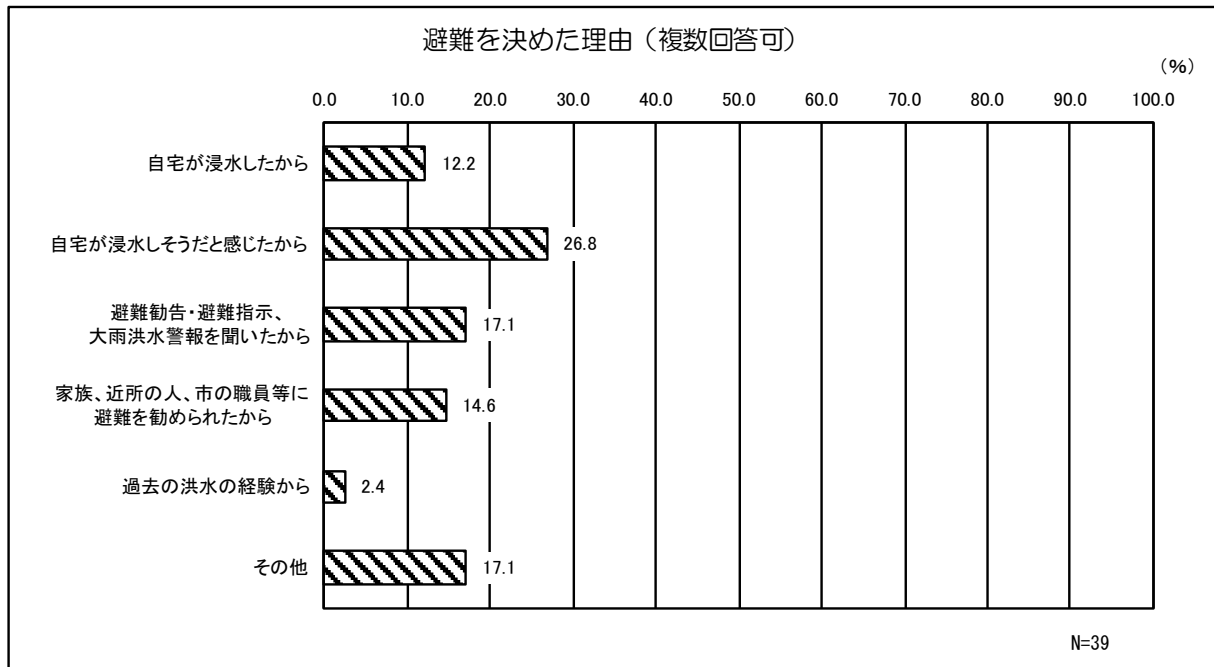
避難指示等の取得手段については、「防災行政無線のスピーカー」が約 30%で最も多く、次いで「メール（安全安心メール・消防メール）」が約 17%、「テレビ・ラジオ等」が約 13%であった。

問6) 災害発生時にハザードマップを見ましたか？



災害発生時にハザードマップを「見ていない」住民が 73%であった。

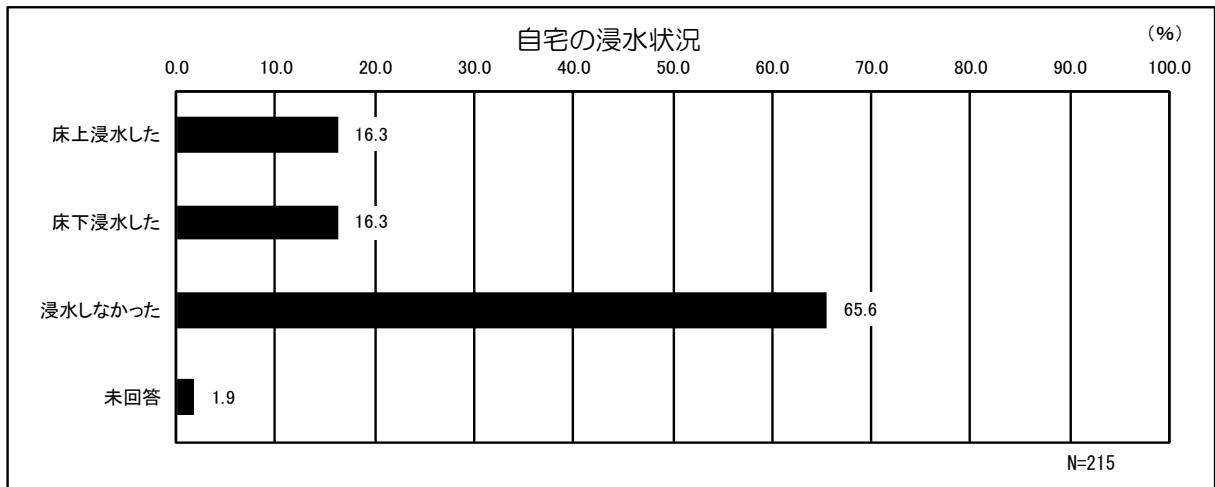
問 7) 避難を決めた理由は何でしたか？



避難を決めた理由については、「自宅が浸水しそうだと感じたから」が約 27%で最も多かった。

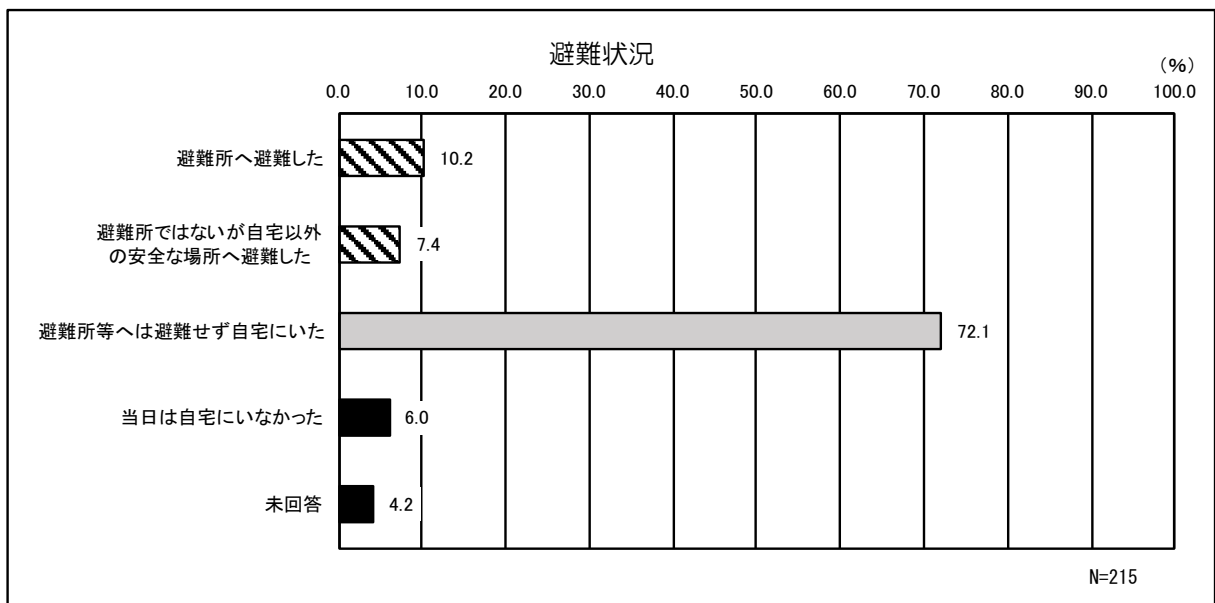
②2014年福知山豪雨による洪水について

問8) ご自宅は浸水しましたか？



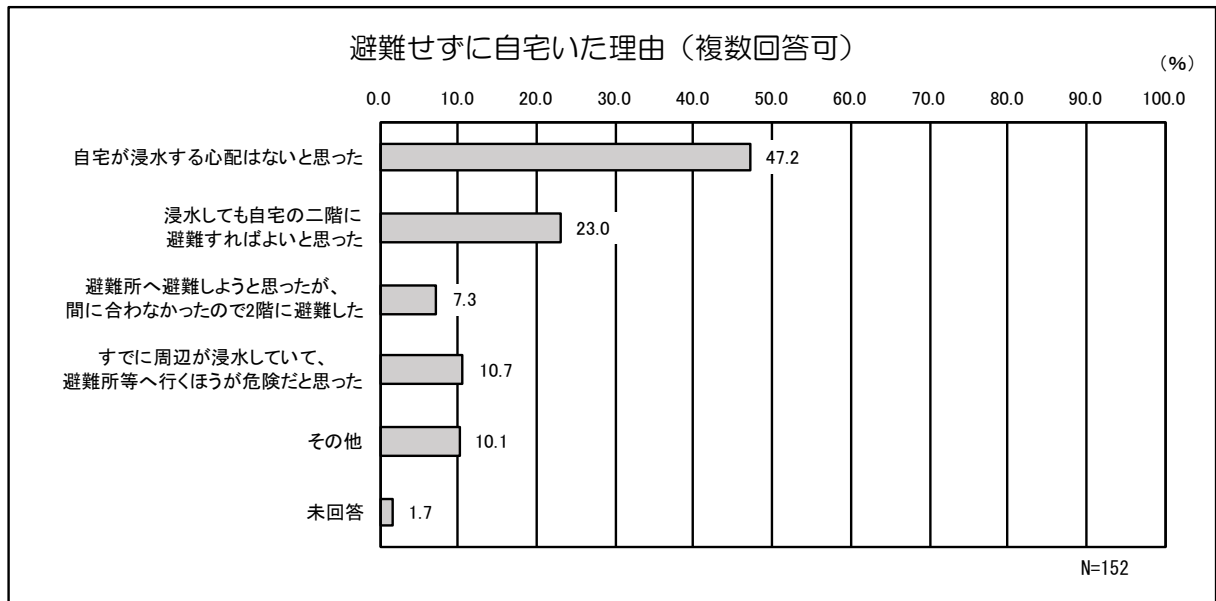
自宅の浸水状況については、「浸水しなかった」住民が約66%であり、「自宅が浸水した」住民は約33%であった（「床上浸水した」と「床下浸水した」の合計）。

問9) 避難しましたか？



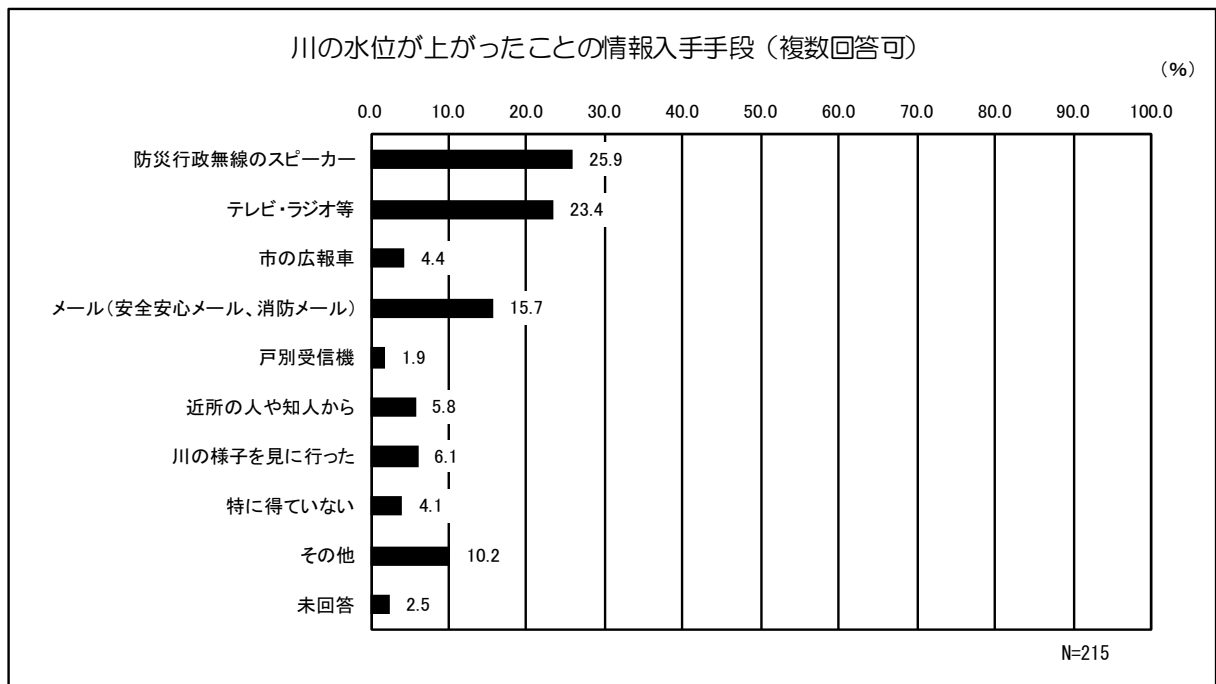
「避難所等へは避難せず自宅にいた」住民は約72%であり、「避難所等へ避難した」住民は約18%であった（「避難所へ避難した」と「避難所ではないが自宅以外の安全な場所へ避難した」の合計）。

問 10) 避難せずに自宅にいた理由は何ですか？



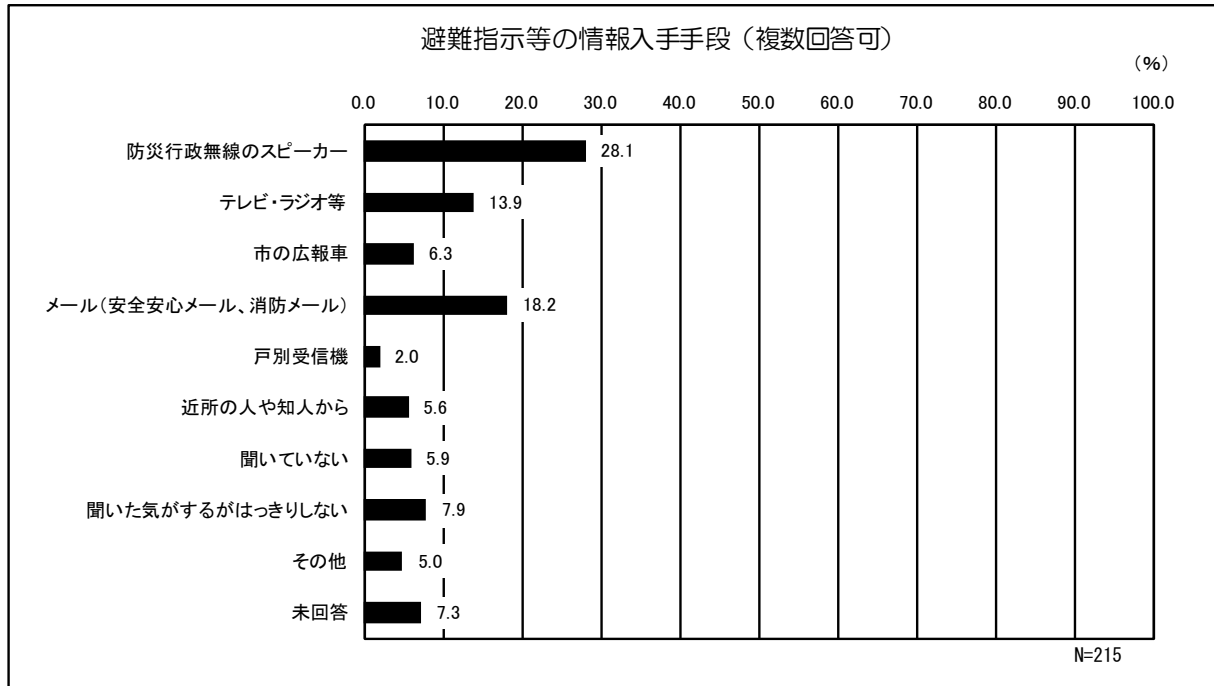
自宅にいた理由は、「自宅が浸水する心配はないと思った」が約 47%で最も多く、次いで「浸水しても自宅の二階に避難すれば良いと思った」が 23%であった。

問 11) 災害発生時やその前に川の水位が上がったこと等は何から情報を得ていましたか？



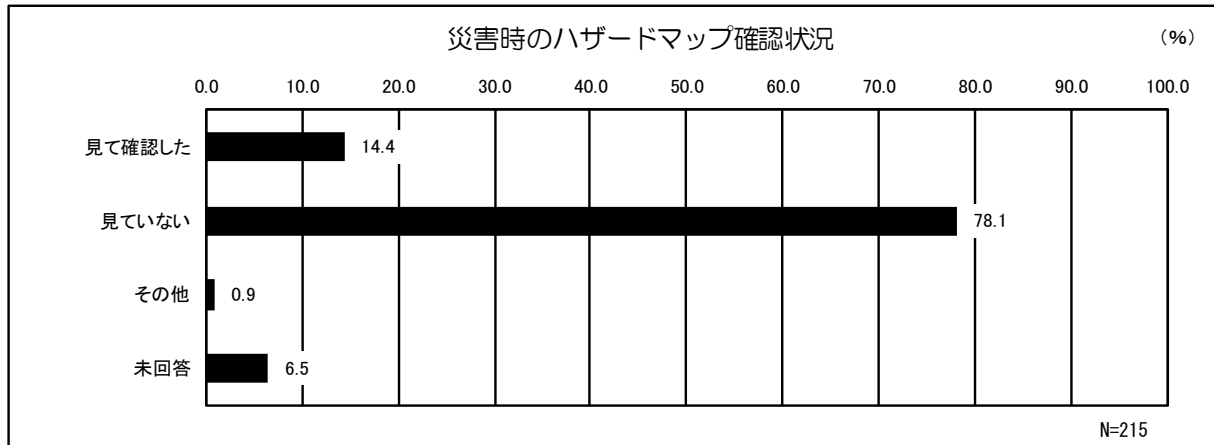
川の水位に関する情報取得手段は、「防災行政無線のスピーカー」が最も多く約 26%であり。次いで「テレビ・ラジオ等」が約 23%、「メール（安心安全メール、消防メール）」が約 16%であった。

問 12) 避難勧告や避難指示の情報を何で知りましたか?



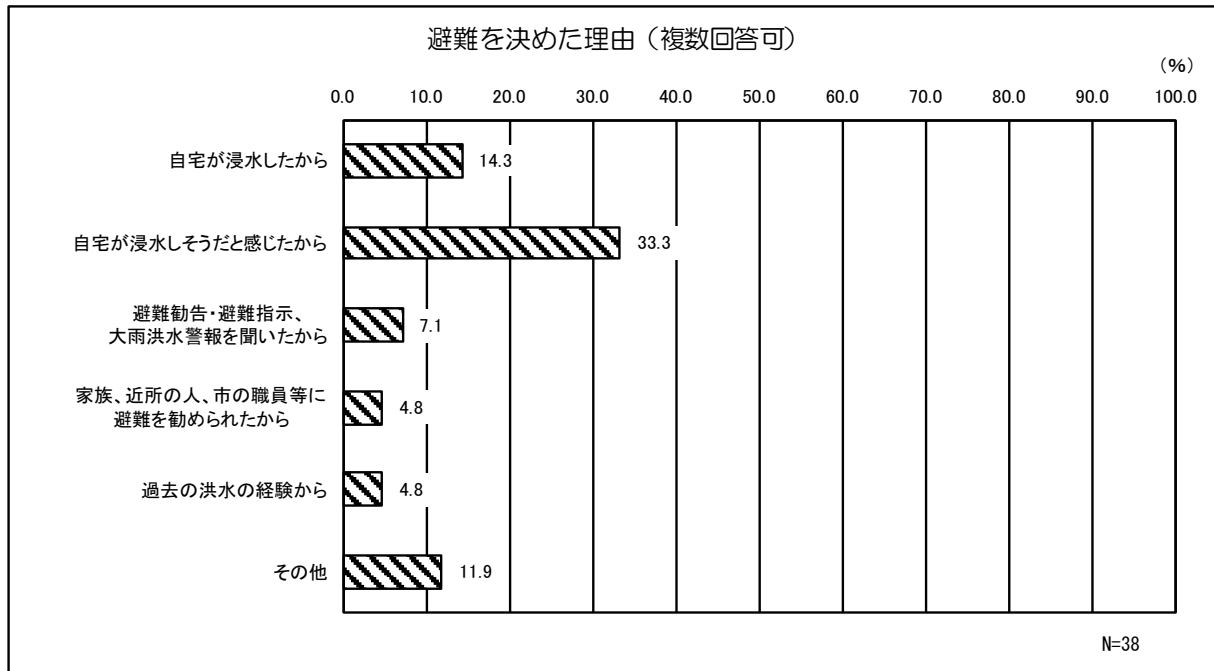
避難指示等の取得手段については、「防災行政無線のスピーカー」が約 28%で最も多く、次いで「メール（安全安心メール・消防メール）」が約 18%、「テレビ・ラジオ等」が約 14%であった。

問 13) 災害発生時にハザードマップを見ましたか?



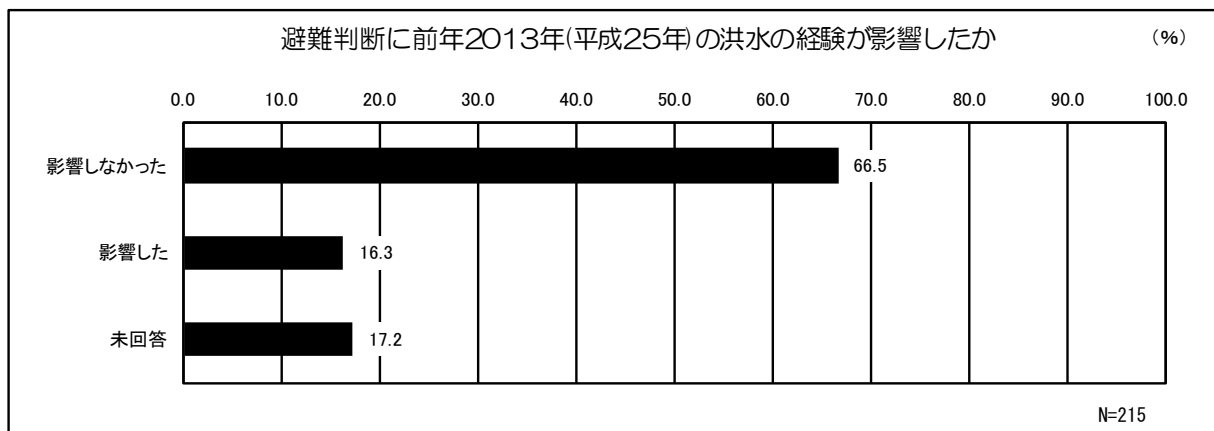
災害発生時にハザードマップを「見ていない」住民は約 78%であった。

問 14) 避難判断の決め手は何でしたか？



避難判断の決め手については、「自宅が浸水しそうだと感じたから」が約 33%で最も多く、次いで「自宅が浸水したから」が約 14%であった。

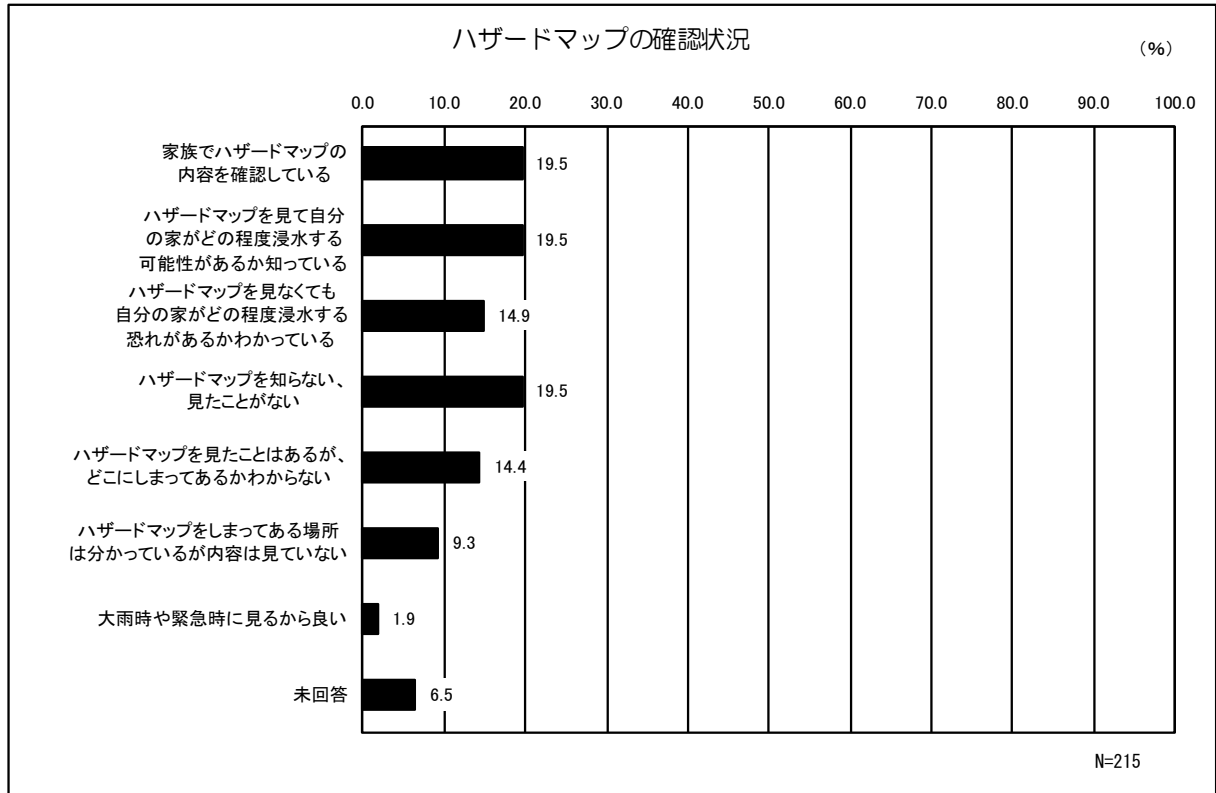
問 15) 避難判断に、前年 2013 年(平成 25 年)の洪水の経験が影響しましたか？



避難判断に前年の洪水経験は「影響しなかった」と回答した住民が約 67%であった。

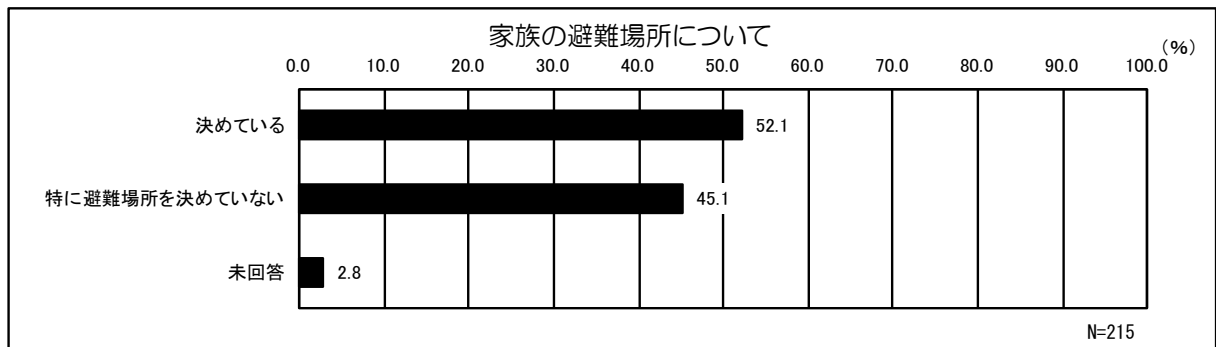
③日頃の情報認知について

問 16) ハザードマップを見たことがありますか?



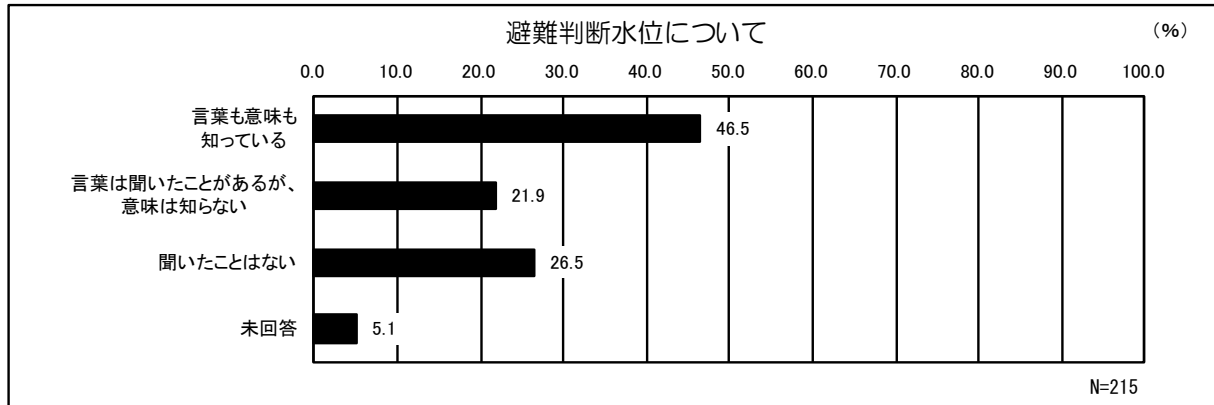
「家族でハザードマップの内容を確認している」、「ハザードマップを見て自分の家がどの程度浸水する可能性があるか知っている」、「ハザードマップを知らない、見たことがない」の3つが同数で19.5%であった。

問 17) 日頃から家族の避難場所は決めていますか?



日頃から家族の避難場所を「決めている」住民は約52%であった。

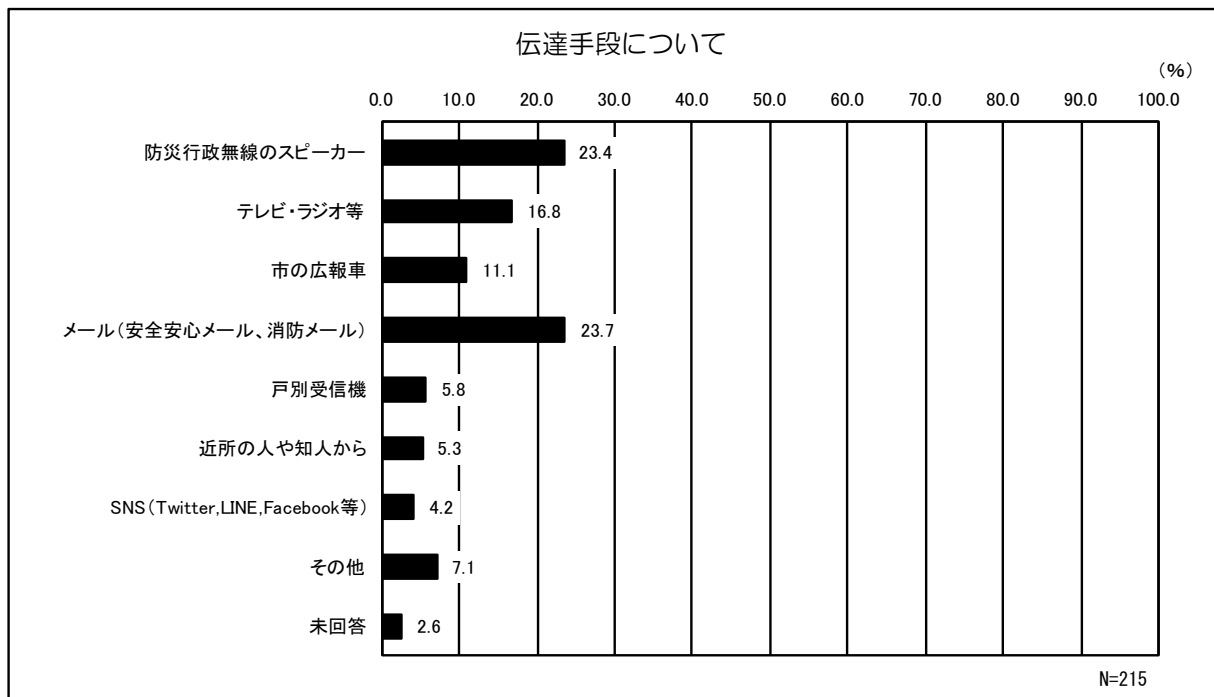
問 18) 川の水位が【避難判断水位】を超えると避難を考える必要があることになって
いますが、【避難判断水位】を知っていますか？



避難判断水位について「言葉も意味も知っている」住民は約 47%であった。

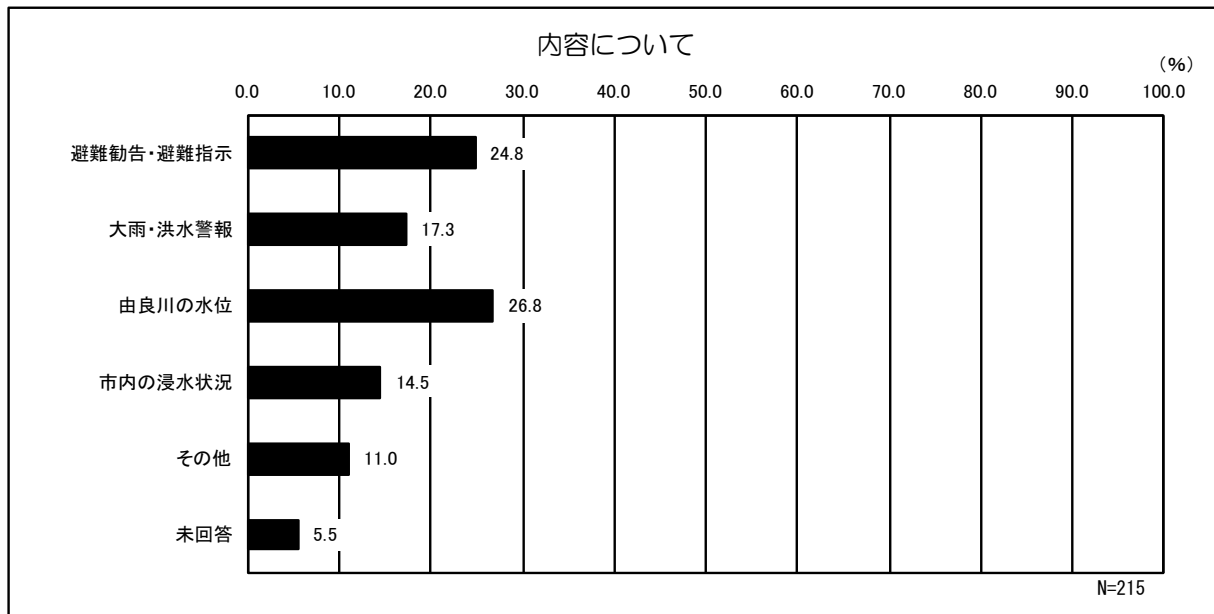
④避難判断に有用な情報について

問 19) 避難判断をする上でどのような伝達手段が有用だと考えますか？



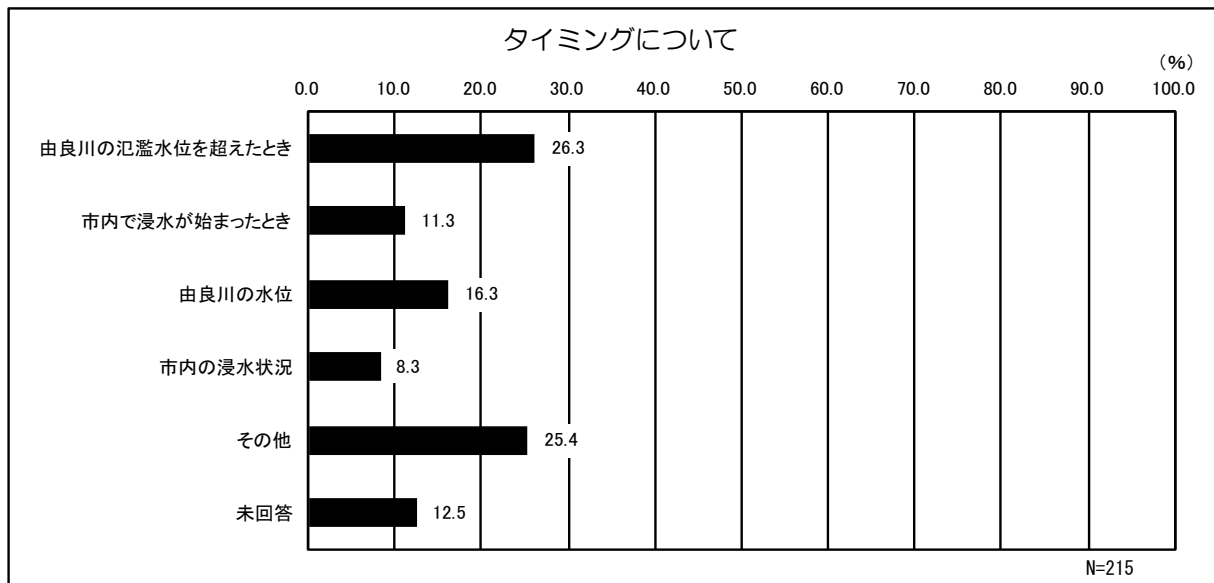
避難判断に有用な情報の伝達手段については、「メール（安全安心メール、消防メール）」が約 24%で最も多く、次いで「防災行政無線のスピーカー」が約 23%、「テレビ・ラジオ等」が約 17%であった。

問 20) 避難判断をする上でどのような内容が有用だと考えますか？



避難判断に有用な情報の内容については、「由良川の水位」が約 27%で最も多く、次いで「避難指示・避難勧告」が約 25%、「大雨・洪水警報」が 17%であった。

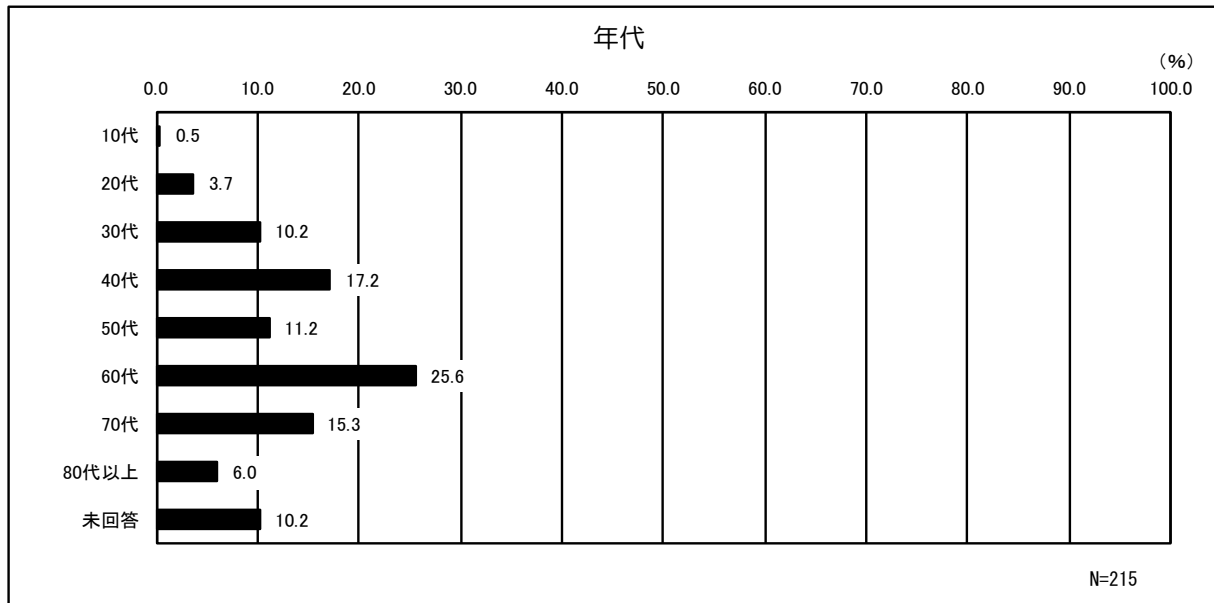
問 21) 避難判断をする上でどのタイミングが有用だと考えますか？



避難判断に有用な情報を取得するタイミングについては、「由良川の氾濫危険水位を超えたとき」が最も多く約 26%であった。

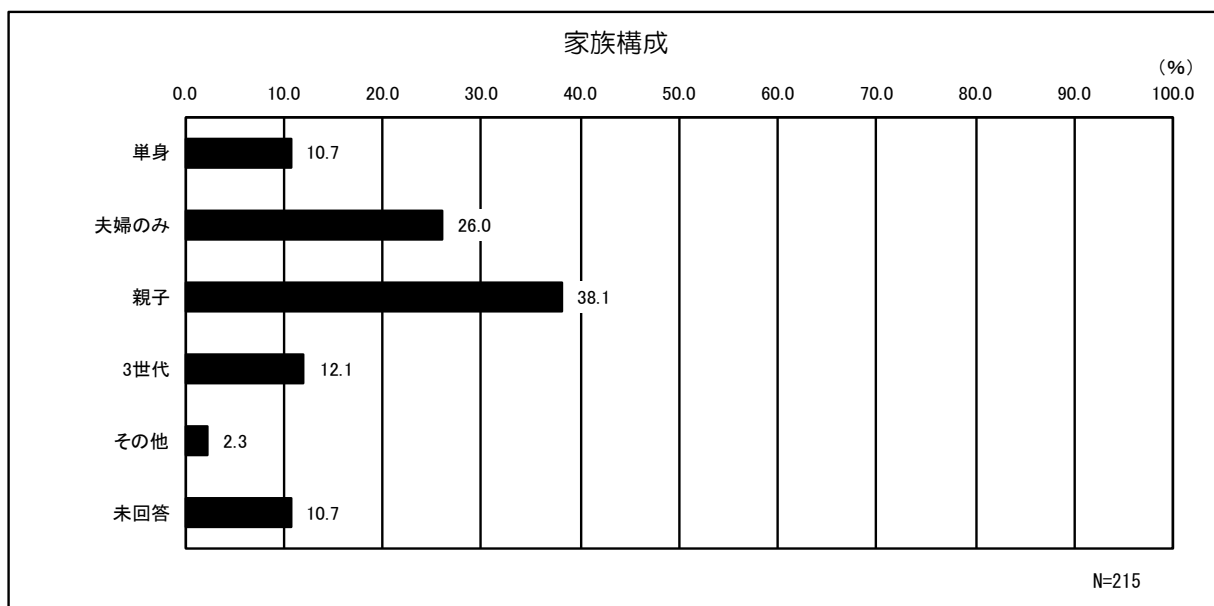
⑤属性

問 22) 年代



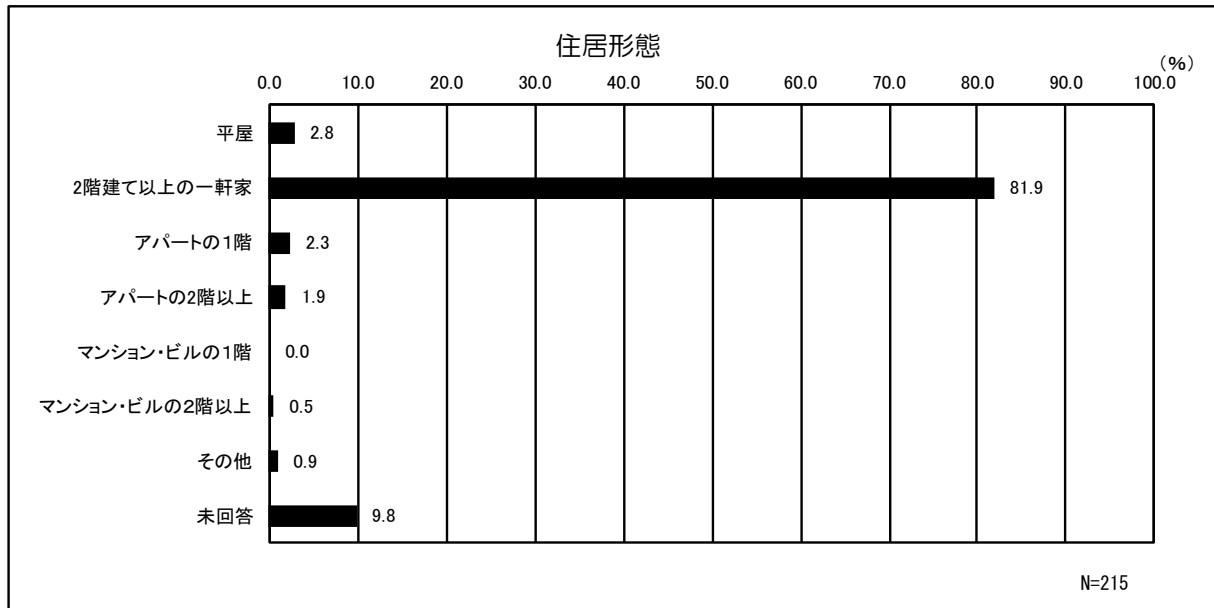
年代については、60代以上の回答者が約半数を占めた。

問 23) 家族構成



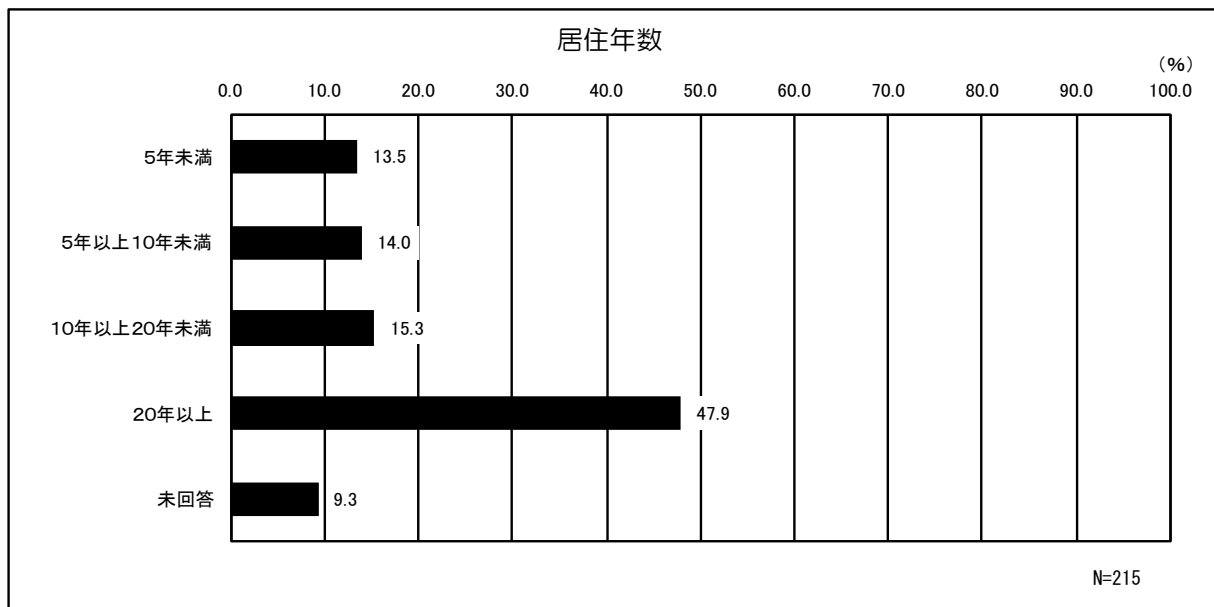
家族構成については、「親子」が約38%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が26%であった。

問 24) 住居形態



住居形態は、「2階建て以上の一軒家」が約8割を占めた。

問 25) 居住年数



居住年数は、「20年以上」住んでいる人が約48%であった。